



にほん はた ま なか あか まる 日本の旗はどうして真ん中が赤い丸なの

まる たいよう あわ 丸い太陽を表すものだから

にほん あか まる はた さいしょ つか ねん たいか かいしん
日本で赤い丸の旗が最初に使われたのは、645年の大化の改新のあとですから、今から
1350年ほどむかしのことになります。この旗は太陽を表すものでした。これ以後、国旗
は「日の丸」とか、日章旗とか、旭日旗とかよばれましたが、いずれも太陽を表したもので
す。真ん丸い太陽を旗にしたものですから、真ん中が赤い丸になったのです。

はた ぶしょう き い せい き せんごくじだい はた いえ
この旗は武将たちにもたいへん気に入られ、16世紀の戦国時代には、旗じるしや家の
しるしを表す家紋としても使われました。

がいこく ちゅうもく 外国からも注目された

しろじ たいよう はた がいこく ちゅうもく めいじ ぶんめいかいが
白地に太陽をデザインしたこの旗は、外国からも注目されて、明治の文明開化のころに
は、フランスが「500万円でゆずってほしい」と名乗りをあげたそうです。日本は国旗
を売るわけにはいかないといって、手ばなさなかったそうです。（監修・保岡 孝之）

